

関係機関長 殿

沖縄県病害虫防除技術センター所長
(公 印 省 略)

病害虫発生予察技術情報について
令和3年度病害虫発生予察技術情報第6号を発表したので送付します。

令和3年度病害虫発生予察技術情報第6号

ミカンコミバエ種群の再発生防止について

果樹や果菜類の重要害虫であるミカンコミバエ種群は、1986年に我が国では根絶しましたが、国外からの飛来等により、毎年の入り込みが確認されています。沖縄県ではその捕獲虫数が近年になり増加し、昨年(2021年)は、大東諸島を除く沖縄全域で根絶後最多数の虫が捕獲されました(図8)。特に、12市町村では本種が果実からも確認されており、今後、県内で広がる可能性も懸念されます。本種のまん延防止のため、以下の対策を徹底しましょう。

1 ミカンコミバエ種群の生態

- (1) ミカンコミバエ種群(*Bactrocera dorsalis* complex)はハエ目ミバエ科に属しており、中国、東南アジア、ハワイなどに生息する。
- (2) 成虫は体長約7mm(図1)、幼虫は3齢で7~11mmで乳白色~橙白色である(図2)。成虫は、主に、柔らかい熟果や果実の傷口に産卵する。幼虫は果実内部を食害し、老熟すると果実から脱出して、地中で蛹化する。
- (3) 寄主植物の範囲は非常に広い。主に、バンジロウ(グワバ)類、アセロラ、ゴレンシ、マンゴー、かんきつ類(シークワーサー、シキキツ、キンカン等)、パパイヤ、モモ、トマト等の成熟果で発見される(図3~6)。

2 果実への被害

幼虫が寄生した果実は水浸状になり、腐敗する(図2)。特に、管理されていない放置園や家庭菜園、庭先で寄生が多い。



図1 ミカンコミバエ雄成虫



図2 ミカンコミバエ幼虫



図3 ゴレンシ (スターフルーツ)



図4 バンジロウ(グワバ)の寄生果実



図5 放置されたシークワーサー落下果実

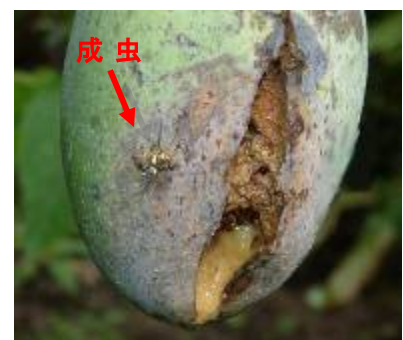


図6 マンゴーの裂果に飛来した成虫

3 防除対策

- (1) 施設内への飛来侵入を防ぐため、施設栽培では出入口は開放せず二重カーテンを設置する。側面、天窓には防虫ネットを設置する。
- (2) 露地栽培では植物体を防虫ネットで被覆するか、果実に産卵しないよう袋がけをする。
- (3) ビニール、ネット等の破損部分は直ちに修理する。
- (4) 成熟したあるいは傷のついたバンジロウ、ゴレンシ、アセロラ、かんきつ類等の寄主果実、果実残さ等は本種の発生源となる可能性があることから、ポリ袋に入れて密閉処理等を行い、陽当たりのよい場所で2週間～1か月程度置いて熱処理をした後に適正に処分する(図7)。
- (5) 登録農薬による防除の実施。
- (6) 果実の輸送の際は、産卵防止のためネットや新聞紙等で果実の露出を防止する。
- (7) 収穫等の管理ができない園地や庭先の不要な寄主植物は、可能な限り除去する。

4 防除対策上特に注意すべき事項

- (1) 熟果、傷果、落下果、残果等をポリ袋などで密閉するとき、本種の幼虫が潜り出ないように、袋の口は絞って、折り曲げ、ガムテープで固く巻き付ける。
- (2) ミカンコミバエ種群による寄生が疑わしい果実を発見したら放置せず、ポリ袋などに密封し、県の病害虫防除技術センターや最寄りの普及センター等に連絡し、寄生の有無を確認する。
- (3) 特に、管理されていない放置園や家庭菜園、集落の庭先で寄生が多いことから、地域で協力して防除に取り組む必要がある。



図7 残渣物のポリ袋による密封処理法

(果実残渣等をポリ袋に密閉し、陽当たりのよい場所で2週間～1か月程度置いた後処分する)

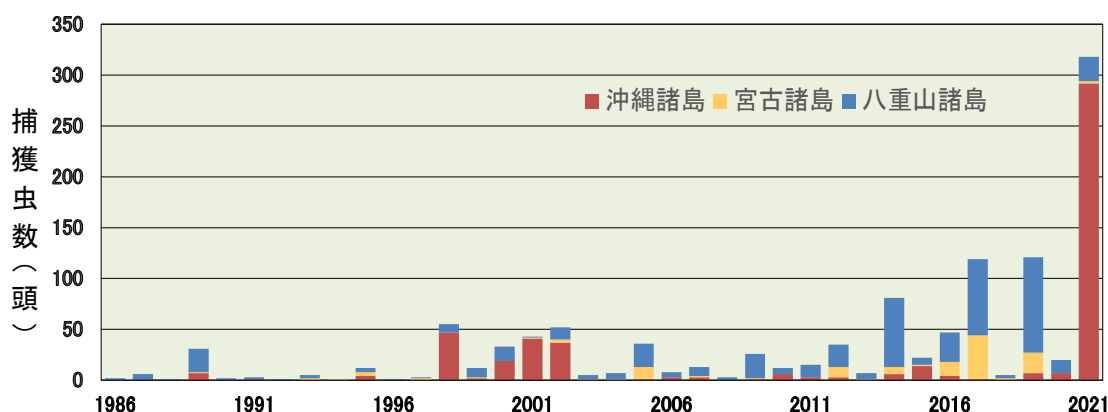


図8 沖縄県内におけるミカンコミバエ種群根絶(1986年)後の本種のトラップ捕獲虫数(2022年1月時点)

詳しくは県病害虫防除技術センターにお問い合わせ下さい★

TEL : (本所)098-886-3880、(宮古駐在)0980-73-2634、(八重山駐在)0980-82-4933

ホームページアドレス : <http://www.pref.okinawa.jp/site/norin/byogaichuboj/index.html>